

# 情報通信分野における 国際標準化の推進に向けた取組

---

2019年12月6日

総務省 国際戦略局 通信規格課

山口 修治

1. 社会全体のデジタル化の推進
2. ICT分野における国際標準化の推進に向けた取組
3. デジタル化時代のICT分野の標準化戦略に向けて

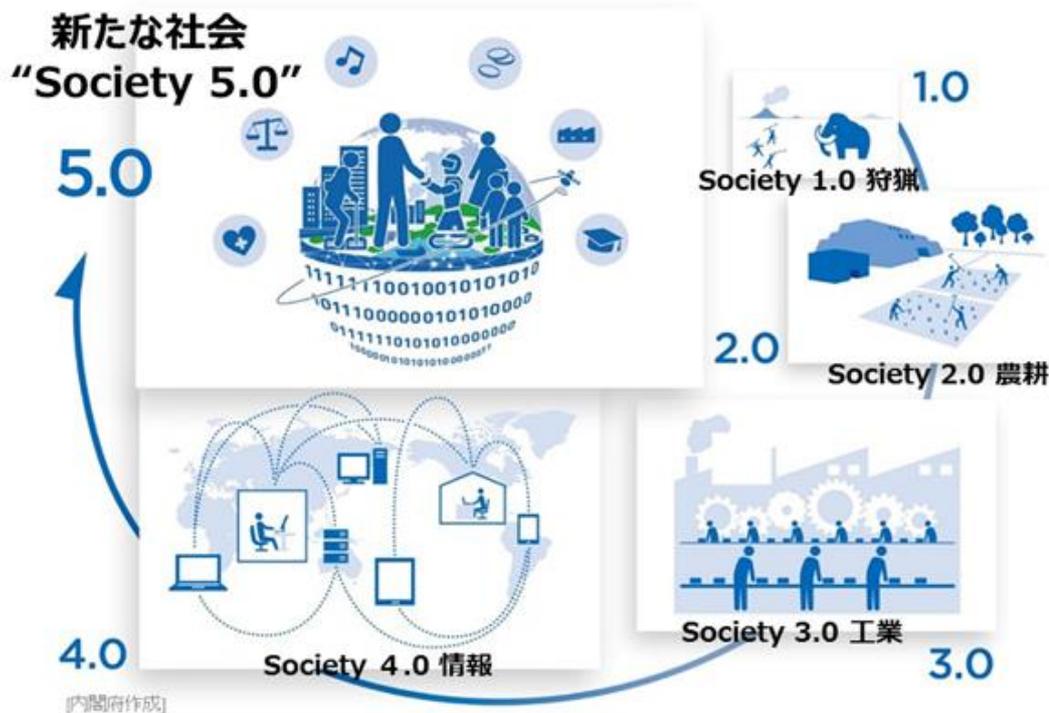
1. 社会全体のデジタル化の推進

2. ICT分野における国際標準化の推進に向けた取組

3. デジタル化時代のICT分野の標準化戦略に向けて

- サイバー空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。
- 狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

## Society5.0の社会像

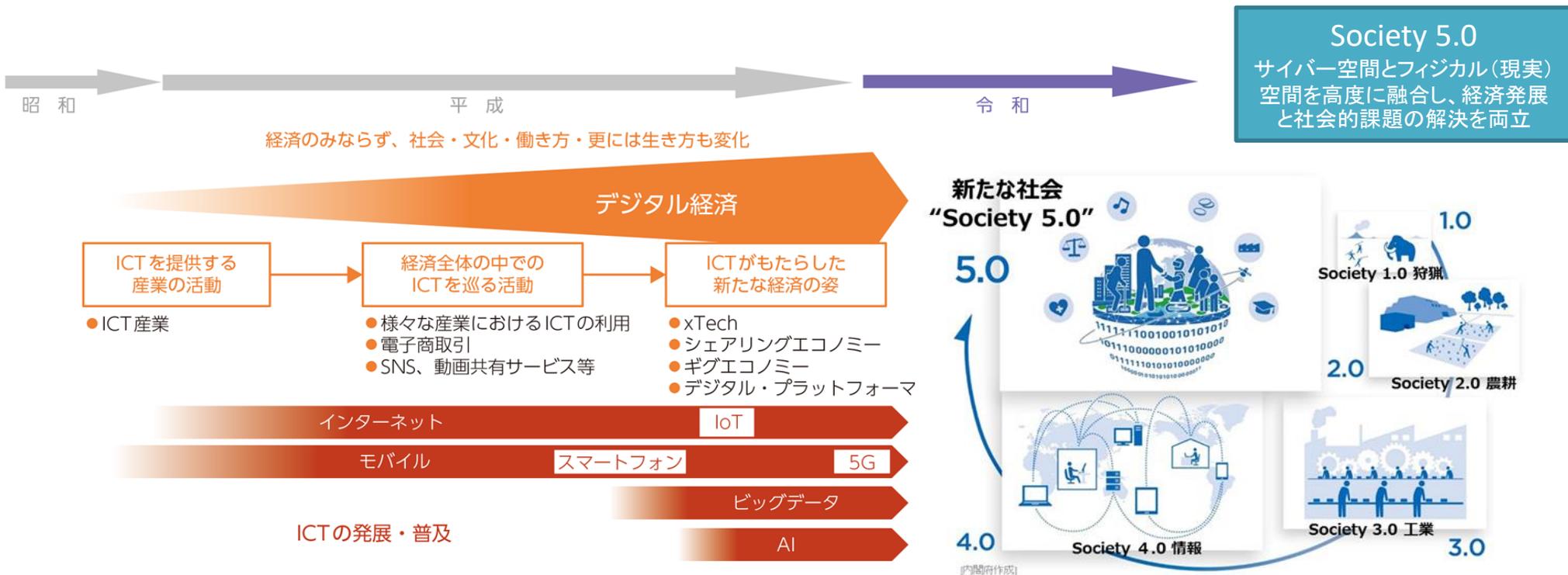


IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服。

また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服。

社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会をめざす。

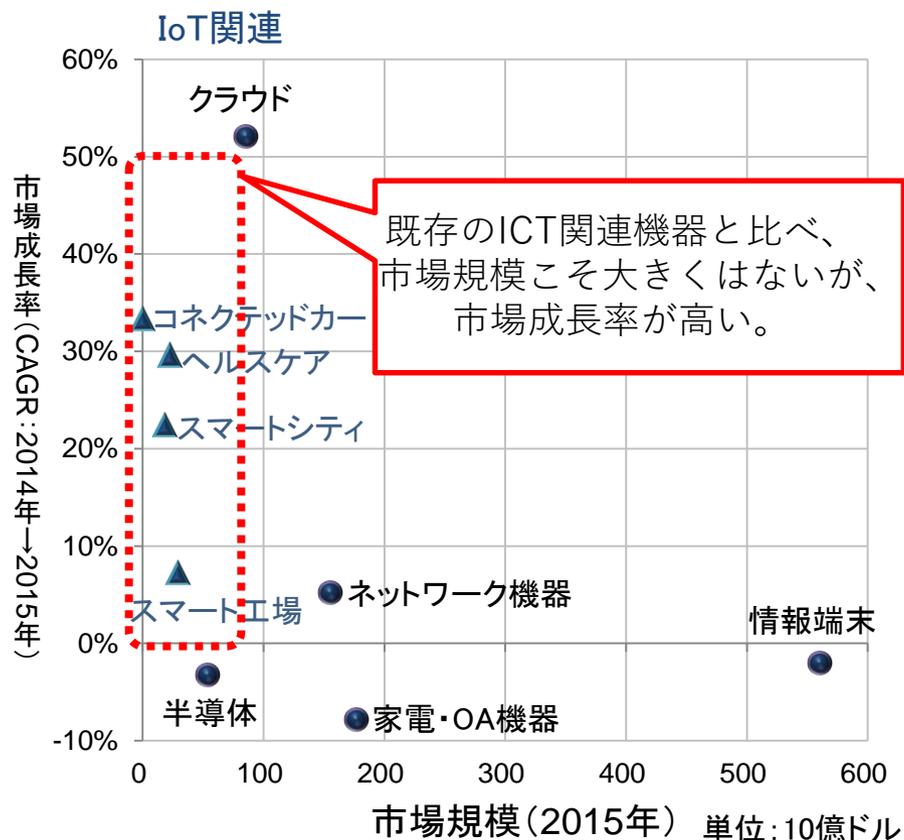
- Society 5.0の実現には、AI/IoT、5G等のICT分野におけるキーテクノロジーを社会実装し、サイバー空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合(社会全体のデジタルライゼーション及びデジタルツイン)を推し進め、社会システムを大きく変革(デジタルトランスフォーメーション)していくことが必要。
- Society 5.0の実現は、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成にも貢献



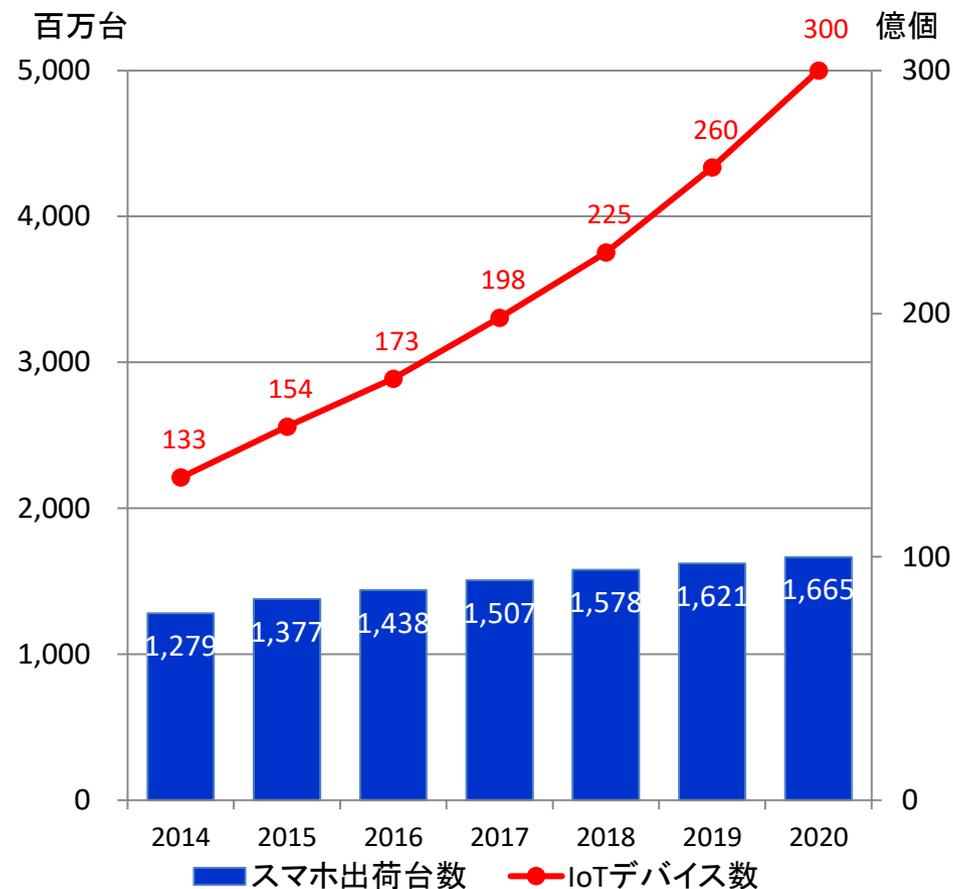
# 情報通信産業のIoT化

- **IoT関連市場**は、既存のICT関連機器と比べ、市場規模こそ大きくはないが、**市場成長率が高い**。
- スマートフォン出荷台数の伸びは鈍化。他方で「モノ」がインターネットにつながる**IoTデバイス数**が急増し、**2020年時点で300億個**に達する見込み。

## 世界の市場規模と市場成長率



## 世界のIoTデバイス数とスマホ出荷台数の推移及び予測



■ IoT分野の経済効果は、2025年には世界で都市や工場を中心に最大で1,336兆円程度と推定

利用シーン	IoTへのニーズ	ソリューション例	2025年経済効果 (単位：兆円)
 ウェアラブル	疾病のモニタリング、管理や健康増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者や高齢者のバイタル等管理、治療オプションの最適化</li> <li>医療機関/診察管理（遠隔治療、サプライチェーン最適化等）</li> <li>創薬や診断支援等の研究活動</li> </ul>	20.4-190.8
 家	エネルギーマネジメント、安全やセキュリティ、家事自動化、機器の利用に応じたデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>宅内の配線、ネットワークアクセス、HEMS等の管理</li> <li>家庭の安全&amp;火災警報、高齢者/子供等の見守り</li> <li>宅内の温度/照明調節、電化製品/エンタメ関連の自動運転</li> </ul>	24.0-42.0
 小売り	自動会計、配置最適化、スマートCRM、店舗内個人化プロモーション、在庫ロス防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンの可視化、顧客&amp;製品情報の収集、在庫管理の改善、エネルギー消費の低減、資産とセキュリティの追跡を可能とするネットワークシステム及びデバイスの提供</li> </ul>	49.2-139.2
 オフィス	組織の再設計と労働者モニタリング、拡張現実トレーニング、エネルギーモニタリング、ビルセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動監視・制御（HVAC、照明、防災&amp;防犯、入退出管理等）</li> <li>オフィス関連機器（コピー機、プリンタ、FAX、PBXの遠隔監視、IT/データセンタ、イントラの機器類）の監視・管理</li> </ul>	8.4-18.0
 工場	オペレーション最適化、予測的メンテナンス、在庫最適化、健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフラ/サプライチェーン管理、製造工程管理、稼働パフォーマンス管理、配送管理、バージョン管理、位置分析等</li> </ul>	145.2-444.0
 作業現場	オペレーション最適化、機器メンテナンス、健康と安全、IoTを活用したR&D	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー源となる資源（石油、ガス等）の採掘、運搬等に係る管理の高度化</li> <li>鉱業、灌漑、農林業等における資源の自動化</li> </ul>	19.2-111.6
 車	状態に基づくメンテナンス、割引保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車、トラック、トレーラー等の管理（車両テレマティクス、ナビゲーション、車両診断、盗難車両救出、サプライチェーン統合等、追跡システム、モバイル通信等）</li> </ul>	25.2-88.8
 都市	公共の安全と健康、交通コントロール、資源管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力需給管理（発送電設備、再生可能エネルギー、メータ等）</li> <li>旅客情報サービス、道路課金システム、駐車システム、渋滞課金システム等主に都市部における交通システム管理の高度化</li> <li>公共インフラ：氾濫原、水処理プラント、気候関連等の環境モニタリング等</li> <li>飛行機、船舶、コングラ等非車両を対象とした輸送管理</li> </ul>	111.6-199.2
 建物外	配送ルート計画、自動運転車、ナビゲーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>追跡システム：人（孤独な労働者、仮出所者）、動物、配送、郵便、食（生産者⇒消費者）、手荷物等のトレーシング</li> <li>監視：CCTV、高速カメラ、軍事関係のセキュリティ、レーダー/衛星等</li> </ul>	67.2-102.0

# Society 5.0 for SDGs

Keidanren  
Policy & Action

Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル  
さらには、国連で掲げられたSDGsの達成にも大いに貢献するもの



経団連はSDGsを支援しています。

1. 社会全体のデジタル化の推進
2. ICT分野における国際標準化の推進に向けた取組
3. デジタル化時代のICT分野の標準化戦略に向けて

- 情報通信審議会(2017年1月)の答申及びデジタル変革時代のICTグローバル戦略懇談会(2019年5月)等を踏まえ、デジュール及びフォーラム標準化活動を一層強化するとともに、ビジネス展開や社会実装を促進する効果的ツールとして国際標準化を捉えその活動を推進。

## 1) デジュール及びフォーラム標準化活動の強化

### (ア) 標準化活動の支援

情報通信審議会の答申で選定された重点テーマを踏まえつつ、引き続き、フォーラム標準化団体(W3C、IETF、IEEE等)及びデジュール標準化機関(ITU等)における国際標準化の動向調査、標準規格策定支援、国際会議招致の支援等を実施。

※フォーラム標準化団体(W3C、IETF、IEEE等)及びデジュール標準化機関(ITU等)における動向調査の実施やその調査活動を通じた標準化活動の支援(技術仕様の作成等)等。  
2019年6月WISA-20 APT地域準備会合・ASTAP会合招致。

### (イ) 若手標準化人材の育成等

将来の標準化人材や国際標準化会議の役職者の確保等を目指し、国際標準化会議に若者等を派遣し、標準化体制を強化するとともに日本提案への支持拡大を図る。

※2017年度からの3年間で48件の標準化活動の支援を実施(IEEE、IETF、W3C、ITU-T SG20等)。(参考1)

### (ウ) 海外のIoT関係団体との連携

スマートIoT推進フォーラムと連携し、欧米のIoT推進団体(IIC、AIOTI等)との連携を推進。ベストプラクティスやIoT普及に向けた課題等の共有を継続。

※2017年3月、2018年3月「IoT国際シンポジウム2017」(「スマートIoT推進フォーラム」主催)を開催し、国際連携の方向性について議論。(参考2、3)

### (エ) 相互接続検証の推進

様々なIoTデバイスが接続されるプラットフォームの相互連携による新しい価値の創出に向け、IoTデバイス／プラットフォーム等の連携技術の確立と相互接続検証等を実施。

※「IoTデバイス／プラットフォーム等の連携技術の確立と相互接続検証に向けた研究開発」(2017年度～2019年度)、W3C関連会合におけるWoT(Web of Things)に関する相互接続実証等を実施。

## 2) 国際標準化活動を戦略的に活用する研究開発・プロジェクト

### (ア) 国際共同研究の推進

ICT分野における研究開発成果の国際標準化や実用化を加速し、イノベーションの創出や国際競争力の強化に資するため、欧米研究機関との連携による研究開発を戦略的に推進。

※SCOPE(国際獲得型)事業では、現時点までで17プロジェクトを実施。3GPP、IETF 等において計17個の国際標準を獲得。(参考4)

### (イ) 日独連携によるスマートワイヤレス工場の研究開発

スマートワイヤレス工場の実現に向けて無線通信技術の研究開発等を実施するとともに、社会実装を見据えてのIEEE等における標準化提案等を推進。日独連携プロジェクトとして推進。

※日独共同声明(2018年10月)やIoT国際シンポジウム(2019年3月)における議論を経て、2019年度から日独両国において研究開発プロジェクトを開始。(参考5)

## 3) TTCにおける国内標準化支援体制の充実

TTCに設置されたIoT業際イノベーション本部によるビジネス展開を見据えた標準化事前活動等の支援、ITU-T等に加え、フォーラム標準化活動における貢献者に対する表彰(総務大臣賞等)を行う等フォーラム活動との関係を強化。

※ビジネス展開を見据えた標準化事前活動として、TTC会員等以外も参加可能な場(AI等最先端技術の情報収集、ユースケースの検討等)を提供。

フォーラム標準活動(W3C、IETF、IEEE、3GPP)関係者に対する表彰(参考6)

2017年:4件、2018年:4件、2019年:3件

## 4) 標準化活動の重要性の理解促進

企業幹部等の標準化活動の重要性の理解促進のため標準化に関する懇話を実施。

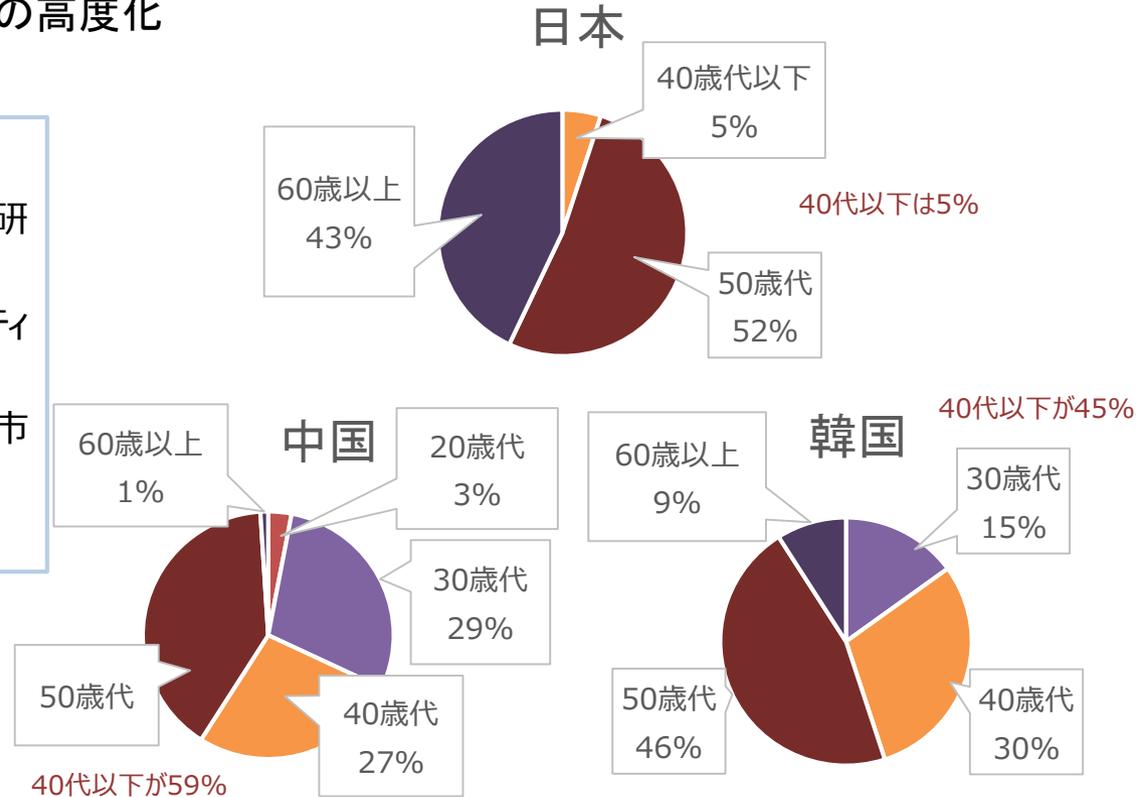
※「ICT国際標準化懇話会」を開催(2017年7月、2018年10月、2019年10月17日)。

～デジタル変革時代のICTグローバル戦略懇談会報告書(2019年5月)参考資料抜粋～

## 6. オープン・イノベーションによるキーテクノロジーの高度化

### 研究開発・標準化の現状と課題

- 研究者の国際ネットワーク力の低迷
- 研究開発において自前主義が強く、国内はもとより海外の研究機関・企業等との連携も限られている
- 標準化の意義や役割が変化する中、国際標準化をマーケティングとして活用する国が増加
- フォーラム(3GPP/IEEE/IETF/W3C等)での標準化が市場形成をリードしているが、我が国は十分に対応できていない
- 標準化活動へ参加する人材の固定化・高齢化



### 研究開発・標準化の推進方策

- 我が国全体として、マーケティング部門と技術部門が一体となったビジネスの観点からの標準化戦略の検討、標準化活動の推進。検討にあたっては、デジュール標準に偏ることなく、フォーラム標準も念頭においた定常的、長期的な参画を推進。
- 我が国全体として、標準化作業における実装事例や実証試験結果の活用を推進。
- 国は、標準化策定に求められるPoCやユースケースの検討を促進するための支援を強化。標準化活動に関わる人材の拡大支援(若手・役職者の参加支援の強化、国際会合の日本招致、重要分野の活動支援、経営層への理解促進等)
- 国は、研究開発プロジェクトにおいて適切な標準化目標の設定するとともに、標準化動向を定期的、継続的に把握し、社会実装への期待が大きいIoT分野等における標準化の取組を強化

- 我が国の標準化の主導権・プレゼンスの維持のため、議長・副議長等の役職者や、長期的な国際標準化人材の確保のため、国際標準化に関心を有する若者等に対して、標準化機関・団体における国際会議出席に係る渡航費等の支援を実施。

※TTCが公募を実施（公募期間：2019年4月12日～5月8日）（総務省事業）  
2017年度：13件、2018年度：16件、2019年度：19件の調査を実施

目的	対象
標準化の主導権・プレゼンスの維持	国際標準化機関・団体やその下部研究委員会等における議長・副議長等の役職者、または標準化を主導する役割を担う者
継続的な標準化活動維持	国際標準化機関・団体やその下部研究委員会等における国際標準化の経験が深く、豊富な人脈を有する者
長期的な国際標準化人材の育成	国際標準化に関心を有する若者

## IoT推進コンソーシアム

会長：村井純（慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科委員長  
環境情報学部 教授）

### スマートIoT推進フォーラム (技術開発WG)

座長：徳田英幸（情報通信研究機構 理事長）

ネットワーク等のIoT関連技術の開発・実証、標準化等

IoT推進ラボ  
(先進的モデル事業推進WG)

IoTセキュリティWG

データ流通促進WG

国際連携WG

2474者（2019年7月24日現在）

#### 技術戦略検討部会

部会長：森川博之（東京大学教授）

- 産学官の今後の戦略の策定や具体的なプロジェクト組成、テストベッド活用ノウハウの共有、国際標準化活動の推進を実施

#### 技術・標準化分科会

- 国内外の動向把握と技術・標準化戦略、普及展開戦略の検討 等

#### テストベッド分科会

- 技術実証・社会実証を促進するテストベッドの要件とその利活用促進策の検討 等

#### IoT人材育成分科会

- IoTの活用等に必要な専門知識の要件に関する検討、技術開発人材等の育成の推進 等

#### IoT価値創造推進チーム

- マーケティング活動のトータルコーディネーター
- アイデアソン等、イベントの開催
- IoT導入事例収集支援と会員向け紹介

#### 研究開発・社会実証プロジェクト部会

部会長：下條 真司（大阪大学教授）

- 各プロジェクト成果の情報共有、对外発表。また、具体的な検討結果を技術戦略検討部会を通じ国際標準化へ向けて議論を展開

#### 自律型モビリティプロジェクト

- 自律型モビリティシステムの早期実現に向けた技術開発、実証 等

#### スマートシティプロジェクト

- スマートシティの社会実証に向けた技術、課題の検討 等

#### 異分野データ連携プロジェクト

- 異分野ソーシャルビッグデータの横断的な流通・統合を行うための課題の検討 等

- IoT推進コンソーシアムでは、IoTの**テストベッド実証**や、その先にある**標準化等を検討**するにあたり、**海外国との連携を促進**する。これにより、**日本企業によるグローバルなIoTビジネスの創出・普及**を目指す。
- 2016年10月、米国のIoT関連の団体であるIndustrial Internet Consortium (IIC) 、OpenFogとMoUを締結。
- 2017年2月、インドの全国ソフトウェア・サービス企業協会 (NASSCOM) とMoUを締結。
- 2017年3月、欧州のIoTイノベーション・アライアンス (AIOTI) とMoUを締結。
- 2018年3月、IIC、AIOTIがIoT国際シンポジウムに参加。

## インダストリアルインターネットコンソーシアム (IIC) (Industrial Internet Consortium)



### <団体概要>

AT&T、CISCO、GE、IBM、Intel米国5社を創設メンバーに、2014年3月に設立。産業市場におけるIoT (Internet of Things) 関連の産業実装を推進していくことを目指す。

### <MOU締結の狙い>

実証環境の共有や、共通のアーキテクチャ理解に基づいた実証の実施により、効率的かつ効果的なグローバルIoTソリューションの創出が可能となる。

## オープンフォグコンソーシアム (OpenFog Consortium)



### <団体概要>

ARM、CISCO、Dell、Intel、Microsoft、プリンストン大学などが中心となり、2015年11月19日に設立。オープンアーキテクチャおよび分散(処理)コンピューティングの開発(Fogコンピューティング技術)の加速を目指す。

**※2019年1月にIICに統合**

### <MOU締結の狙い>

特にリアルタイム性や大量のデータ処理等が求められる分野のIoTソリューションを見据え、分散コンピューティングを意識した実証や標準化等につき、連携を促進する。

## ナスコム (NASSCOM) (National Association of Software and Services Companies)



### <団体概要>

1988年に設立された、インドのITビジネス関係の業界団体。会員企業はIT、ソフトウェア、webサービス、電子商取引等のインド企業、多国籍企業約2,800社(2019年10月現在)。具体的には、複数の委員会のもとで、ITビジネスの拡大、戦略的パートナーシップの構築等の取組を実施。

### <MOU締結の狙い>

グッドプラクティス等の情報交換や連携可能な分野等の検討、両団体会員企業の相互訪問等の取組みを実施する。

## IoTイノベーション・アライアンス (AIOTI) (Alliance for IoT Innovation)



### <団体概要>

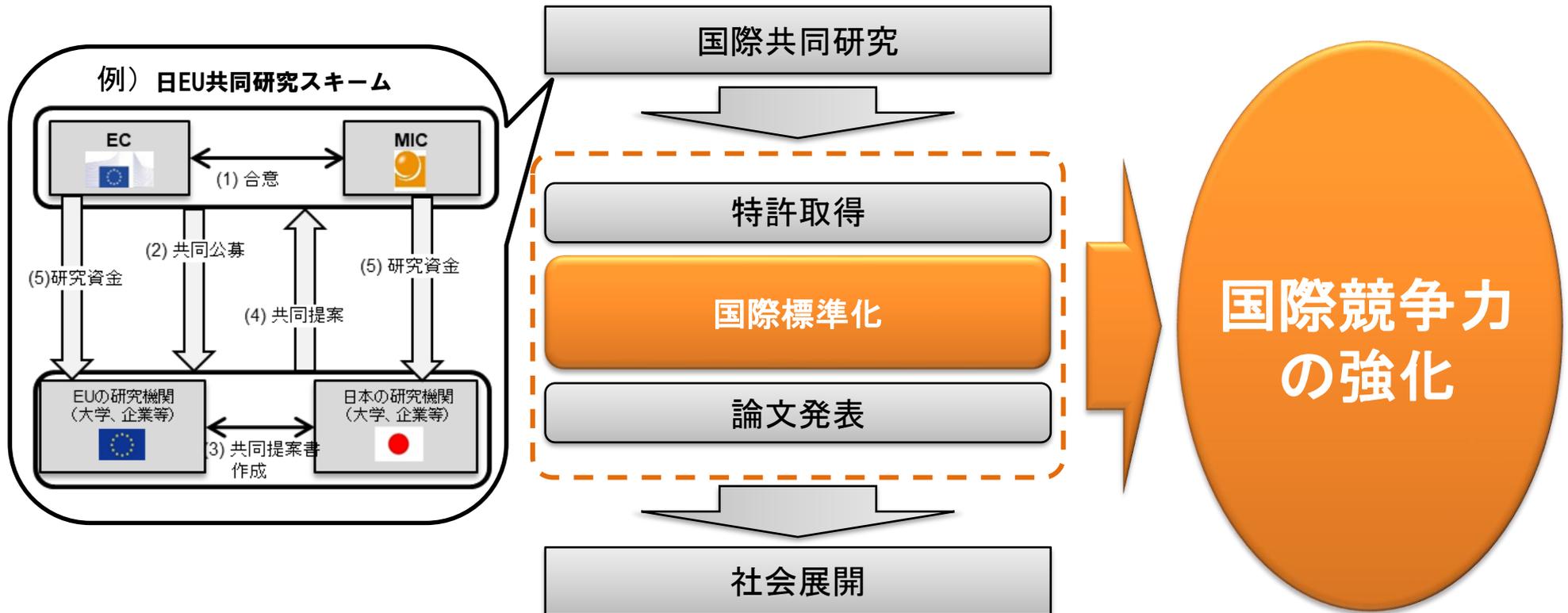
2015年3月に欧州委員会主導により設立された欧州のIoT推進団体。会員企業はIndustrie 4.0の参画メンバーや通信キャリア、チップベンダー等、約160社(2019年10月現在)。13のWGの下で、IoT、エコシステム、標準化、政策課題等に関する議論を実施。

### <MOU締結の狙い>

グッドプラクティスの情報交換やIoT分野の政策提言の共有、IoTに係る標準化やIoTの推進に係る課題に対する協力を進める。

- ICT分野における研究開発成果の国際標準化や実用化を加速し、イノベーションの創出や国際競争力の強化に資するため、外国の研究機関との連携による研究開発を戦略的に推進\*。

・欧米の研究機関とこれまで合計17プロジェクトを実施。



※戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)

ICT分野において新規性に富む研究開発課題を大学・独立行政法人・企業・地方自治体の研究機関などから広く公募し、外部有識者による選考評価の上、研究を委託する競争的資金による事業。このうち、本取組は国際標準獲得型。

- 工場などの生産現場では、少量多品種生産に対応して生産工程の柔軟な変更などができるよう、通信のワイヤレス化が期待されているものの、多数の無線システムが混在すること等による無線通信の不安定化が課題。  
(NICTでは、工場内の無線の利用状況やワイヤレス化に向けたニーズや課題を把握する取組を2015年6月より実施。独DFKIと研究協力※<sup>1</sup>)
- 2017年度より、工場内における無線通信を最適制御する技術の研究開発を開始。併せて、日独連携、標準化、普及促進に向けた取組を一体的に実施。これにより工場のワイヤレス化を推進し、生産性革命に貢献。

※<sup>1</sup> ドイツで開催された国際情報通信技術見本市「CeBIT 2017」を契機として、NICTと独DFKIが工場無線を含むAI・IoTの研究協力に関するMOUを締結

## 工場のワイヤレス化に向けた課題・ニーズ

- ニーズ

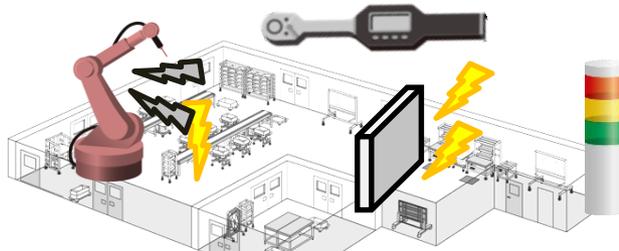
  - ・作業の効率化や安全確保のため有線を無線にしたい
  - ・少量多品種生産に対応して生産ラインを柔軟に組換えるため無線を導入したい
  - ・工作機械等の管理(故障検知等)のため無線を導入したい

課題

  - ・工場内のダイナミックな電波環境の変化への対応
  - ・多数のIoT機器の導入や通信の大容量化に伴う周波数逼迫・通信の輻輳
  - ・WiFiアクセスポイントとの競合、産業機械からの雑音、電波の遮蔽等の課題



少量多品種生産に対応して生産ラインを柔軟に組換えたい需要



様々な工具・機器のIoT化・大容量化に伴う周波数・通信の相互干渉

## 研究開発と成果展開の一体的な取組

### 国際連携の推進

- ・政府間協力(ハノーバー宣言)
- ・海外研究機関等との連携  
(CeBITにおけるNICT-DFKIのMoU締結)
- ・日独大臣級共同声明(2018年10月)
- ・日独共同研究  
(DFKI及び  
フ라운ホーファ)

### 国際標準化の推進

- ・無線通信の国際標準化  
- IEEE802.11

国際  
連携

標準化

### 研究開発の推進

- ・狭空間における無線通信の最適化
- ・高ノイズ環境下での無線通信の高信頼化

研究  
開発

普及  
促進

人材  
育成

### 情報発信と仲間づくり

- ・IoT推進コンソーシアム/  
スマートIoT推進フォーラム等
- ・フレキシブルファクトリーパートナーアライアンス(FFPA)

### 人材育成・リテラシー向上

- ・工場等における電波リテラシー向上に係る講習会

※: 2017年に設立された標準化・普及を促進する民間アライアンス「FFPA (=Flexible Factory Partner Alliance)」

- ・ TTCでは、情報通信分野における標準作成等に多大な貢献をした団体・個人に対し、2004年度から表彰を実施。
- ・ 情報通信審議会答申(2017年1月27日)を受け、2017年度より、フォーラム標準化団体における標準化活動に貢献された方々も新たに表彰の対象。

## 2019年度受賞者

### ○ 総務大臣表彰

- ・ 川添 雄彦  
日本電信電話(株)
- ・ 田中 俊昭  
KDDI(株)

### ○ TTC会長表彰

- ・ 新 善文  
アラクスラネットワークス(株)
- ・ 有吉 正行  
日本電気(株)
- ・ 岩田 秀行  
日本電信電話(株)
- ・ 田中 茂  
沖電気工業(株)
- ・ 田村 基  
(株)NTTドコモ

## 2019年度(6月18日開催) 表彰式の模様



國重政務官(当時)から受賞者へ表彰状の授与  
(川添氏への授与)



國重政務官(当時)から受賞者へ表彰状の授与  
(田中氏への授与)

## 世界電気通信標準化総会 (WTSA: World Telecommunication Standardization Assembly)とは

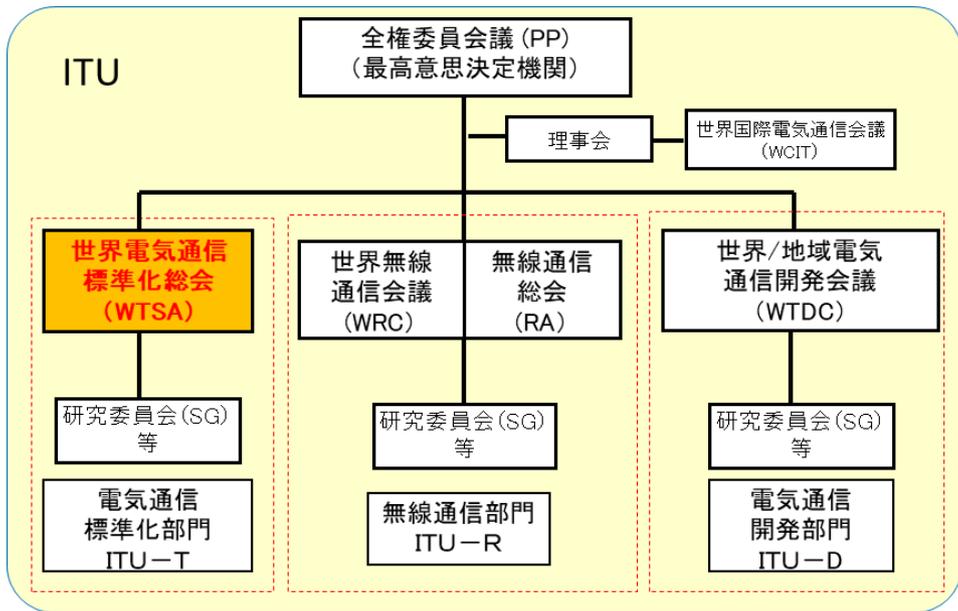
WTSAは、国際電気通信連合電気通信標準化部門 (ITU-T)における標準化活動の方向性を決める最高意思決定会議として、4年に1度開催。(次会期の研究課題の承認、次会期のSG議長・副議長の任命、勧告案の承認等を審議)  
 日程: 2020年11月16日(月)～11月27日(金)、開催地: インド共和国(ハイデラバード)



## WTSA-20 APT準備会合 (APT Preparatory Group for WTSA-20)

世界電気通信標準化総会 (WTSA-20)において議論が想定される議題について、アジア・太平洋地域の意見調整等を行い、APT共同提案を策定することを目的とする。  
 第1回WTSA-20 APT準備会合※は2019年6月11日(火)に日本で開催。

※日本の役職者: TTC 前田 洋一氏【全体会合・議長】、NEC 永沼 美保氏【WG1 (Working Methods) 副議長】、NTT 荒木 則幸氏【WG2 (Work Organization) 議長】、KDDI 本堂 恵利子氏【WG3 (Regulatory/ Policy and Standardization Related Issues) 副議長】



WTSA-20関連スケジュール

	2019年度	2020年度
WTSA-20		● WTSA-20 11月
WTSA-20 APT準備会合	● 第1回 6/11-15	● 第2回 1月～4月 ● 第3回 5月～6月 ● 第4回 8月～9月
WTSA-20準備会合 (EU, America, Africa, Arab等)		●-----● WTSA会合まで4回程度開催
SG会合 (SG2, 3, 5, 9, 11, 12, 13, 15, 16, 17, 20)	●-----●	●-----●
	各SG年2回程度開催	

1. 社会全体のデジタル化の推進
2. ICT分野における国際標準化の推進に向けた取組
3. デジタル化時代のICT分野の標準化戦略に向けて

## 検討の目的

Society5.0の実現やグローバル展開に向けたICT技術戦略を推進するため、**次期科学技術基本計画や国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の次期中長期計画等を見据えつつ、ICT分野で国が重点的に取り組むべき技術課題や社会実装方策等について検討**を行う

	R1年度	R2年度	R3年度
政府全体	第5期科学技術基本計画（H28-R2）		第6期科学技術基本計画
NICT	第4期中長期計画（H28-R2）		第5期中長期計画

## 検討項目・論点

- **近年の社会情勢やニーズを踏まえ、国として取り組むべきICT分野の研究開発課題**
  - ・ 進展が著しい技術（AI、脳情報、量子暗号、B5G等）を含めた重点領域の特定
  - ・ 産学官の役割分担を踏まえ国として取り組むべき研究開発分野・課題
- **技術成果の社会実装方策及びオープンイノベーションに対応した研究開発の環境整備等**
  - ・ 社会実装の推進方策、産学連携及びオープンイノベーション体制の在り方
  - ・ 研究開発による社会課題解決に向けた貢献方策
  - ・ 産学連携及びオープンイノベーションに資する研究拠点の在り方
  - ・ 競争的資金を含めた国の研究開発プログラムの在り方

## WGの設置

技術戦略委員会における審議を円滑かつ効率的に進めるために以下の3つのWGを設置

### 重点領域WG

最近のICT分野の技術動向やSociety5.0の早期実現等の観点を踏まえ、我が国における**ICT分野の重点研究開発分野、重点研究開発課題等について調査、検討**を行う。

### 共創イノベーションWG

研究開発成果の社会実装の在り方等に関する取組の現状と課題を把握し、今後、国及び国研が実施する**研究開発において得られた成果の社会実装を促進するための方策等について調査、検討**を行う。

### 標準化戦略WG

グローバル規模でのデジタル化が進展する中で、国際標準化の現状やその活用動向等を把握するとともに、**社会実装の視点を踏まえた我が国の標準化戦略の在り方について調査、検討**を行う。

# 標準化戦略WGの検討項目と今後のスケジュール

## 【標準化戦略WGの検討項目案】

デジタル化が進展し、国際標準化の意義や活用が変化する中で、我が国の標準化戦略はどうあるべきか

### ➤ 検討項目案

- デジタル化が進展し、標準化活動を積極的に活用して市場形成する動きが活性化する中で、従来の標準化活動の意義・役割や対象を見直す必要性はないか
- ITUにおける中韓の台頭や、民間標準団体等での欧米の仲間作り等が行われている中で、我が国の標準化戦略はどうあるべきか
- 標準化活動を担う人材が固定化・高齢化する課題に対応する人材育成方策 等

## 【今後のスケジュール】



(※) 別途実施する調査研究等において、様々な分野の有識者からヒアリングを行いその結果をインプット

ご清聴ありがとうございました。



くらしの中に

総務省